

◆ゆかりの万葉歌人年表

	西 暦	年 号	関 係 事 項	
飛鳥時代	初期万葉	660 齊明天皇 6年 684 天武天皇 13年	山上憶良、生まれる (推定) 柿本人麻呂、改姓で朝臣となる 柿本人麻呂、石見国司となる	
	白鳳万葉	700 前後	大宝律令成立	
		701 大 宝 元年	山上憶良、遣唐使として中国に渡る (四三歳)	
		702 2 年	山上憶良、帰国 (四五歳)	
		704 慶 雲 元年	柿本人麻呂、石見にて没する (推定)	
	708 和 銅 元年			
奈良時代	平城万葉	710 和 銅 3年	平城京に遷都	
		716 靈 亀 2年	山上憶良、伯耆守となる (五七歳)	
		718 養 老 2年	大伴家持、生まれる	
		719 3年	門部王、伊勢守として按察使を兼任する	
		720~733 (未確定)	養 老 4年 ~	門部王、出雲守となる
		天 平 5年		
		724 神 亀 元年	聖武天皇の即位	
		726 3年	山上憶良、筑前守となる (六七歳)	
		728 5年	大伴家持の父・旅人 大宰帥 (長官) となる (家持 一歳)	
		730 天 平 2年	山上憶良、令和の典拠となった梅花の宴に参加 (七一歳)	
	731 3年	大伴家持の父・旅人、没する (家持 一四歳)		
	733 5年	山上憶良、没する (七四歳)		
	天平万葉	745 17年	門部王、没する	
		746 18年	大伴家持、越中守となる 弟・書持、没する (家持 二九歳)	
		751 天平勝宝 3年	大伴家持、少納言となる (三四歳)	
		758 天平宝字 2年	大伴家持、因幡守となる (四一歳)	
		759 3年	大伴家持、因幡国庁で新年の賀歌をつくる (四二歳)	
		764 8年	大伴家持、薩摩守となる (四七歳)	
		767 神護景雲 元年	大伴家持、大宰少弐 (次官) となる (五〇歳)	
		774 宝 亀 5年	大伴家持、相模守となる (五七歳)	
		776 7年	大伴家持、伊勢守となる (五九歳)	
780 11年		大伴家持、参議となり、右大弁を兼ねる (六三歳)		
783 延 暦 2年		大伴家持、中納言となる (六六歳)		
784 3年	大伴家持、持節征東將軍となる (六七歳)			
785 4年	大伴家持、没する (六八歳)			
平安時代	794 13年	平安京に遷都		
	806 25年	大伴家持、本位に復す。		

万葉集には主に飛鳥時代から奈良時代にかけて約130年間の歌が収められており、歌が詠まれた時期によって「初期万葉」「白鳳万葉」「平城万葉」「天平万葉」の4つの時期に区分されます。初期万葉は素朴でおおらかな歌、白鳳万葉は力強い歌、平城万葉は個性にあふれた多彩な歌、天平万葉は繊細で観念的な歌が多いという特徴があります。柿本人麻呂は白鳳万葉、大伴旅人・山上憶良は平城万葉、大伴家持は天平万葉の代表的な歌人です。